

診療内容 説明書

患者さんお名前 : 古森 良志子 様

診療科 : リウマチ血液感染内科

説明日時 : 2013年 4月 11日 16時 00分 ~ 16時 45分

説明場所 : ICU

昨日の夜よりステロイド（プレドニゾン）の点滴を開始しました。
 今朝より腹腔内に留置してあるドレーンから便状の排泄が多量にあります。
 腸管の壁に浸潤していた悪性リンパ腫の腫瘍細胞がステロイドによって消失・縮小したため腸管に孔があいたと考えられます。
 緊急でCT検査を行いました。腸管穿孔の位置は同定できていません。
 また、本日のCTでは腫瘍が更に大きくなっていました。

外科の先生とも相談しましたが、現在の全身状態・腫瘍の状態を考えると、腸管穿孔に対して手術を行うことは危険が大きすぎてできません。
 腸管に孔が空いて、お腹のなかに便が漏れている状態で抗癌剤治療を行って白血球が下がると、感染症で命を落とします。
 現在の状態で白血球が下がるような抗癌剤治療は行えません。
 ステロイドにも腫瘍を小さくする効果が望めるので、ステロイドのみ5日間投与とします。

ステロイドで腫瘍が小さくなり、消化管穿孔も改善して感染が落ち着けば、抗癌剤投与も検討します。

また、日に日に腎機能が悪化しています。
 原因としては、腫瘍・感染・血圧低下などが考えられます。
 血液透析が必要な状態となっていますので、ICUの先生と相談しながら、必要なタイミングで血液透析を開始していきます。

患者さんご本人（署名）：

説明を受けた方（署名）： 古森 雄一 (続柄 夫)

説明を受けた方（署名）：

説明医師署名：

診療内容 説明書

【患者様お渡し用】

患者様お名前： 古森 良志子 様

診療科： 一般外 科

説明日時： 25年 4月 11日 16時 50分 ~ 17時 40分

説明場所： ICU

腸管壊死 → 穿孔

腸cop症

子宮の癒は リンパ腫 → 化学療法. 優先.

腸管の - 印. 何か? → ドレナ - して対応.

患者様ご本人 (署名) :

説明を受けた方 (署名) :

古森 雄一

(続柄 夫)

説明を受けた方 (署名) :

説明医師署名 :